

## 「tovo」について

「tovo/トヴォ」は東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。

チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。

おかげさまで、**2011年6月から2018年2月現在までの総寄付金は「¥6,165,483」と**なりました。10年間（2011年6月～2021年6月まで）の活動を目指しています。引き続きのご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

## ついに SEASON 7 突入！フリーペーパー「tovo plus」



「tovo plus」は、tovoの発行する月刊のフリーペーパーです。月に1度、青森県内に住むご家族のお話を伺い、311当時の様子、それ以降の考え方や生活の変化を時間の経過と共に記し続けています。100号、100ヶ月、100家族が目標です。

ついにシーズン7突入しました。毎月のご支援ありがとうございます！

※1年間（12号）の定期購読（1,800円）を承ります。



「ブックログのパー」にてPDF配信中！

<http://p.booklog.jp/users/tovo2011>

## チャリティー缶バッジなどのお取り扱い店（順不同／2018年2月現在）

【青森市】A-Factory／アトリエCANOE／もぐらや  
open plaza sora／open plaza sena／  
studio antenna

【弘前市】HOMEWORKS 4th／bambooforest／  
津軽工房社／中国料理 豪華楼

【黒石市】木田理容所

【青森県上北郡】TBT英会話教室

【岡山県岡山市】レストランMint

### ボランティア大募集中！

本年、2018年6月、トヴォは活動開始より7年を迎えます。もうなの、まだなの、感じ方はそれぞれですが、活動目標まで残り3年となります。青森県内、県外問わず、残り3年を共に試行錯誤しながら歩んでくださるボランティアを大募集中です！

メール：tovo 代表 小山田 和正 (info@tovo2011.com)

## フリーペーパー「tovo plus」配布協力店（順不同／2018年2月現在）

【青森県青森市】A-Factory／アピオあおもり／  
アトリエCANOE／open plaza sora／open plaza sena／  
カフェ・デ・ジターヌ／肴ダイニング心／SUBLINE／  
studio antenna／ヒーリングサロンLULU／ふたば写真館／  
もぐらや

【青森県弘前市】まちなか情報センター／弘前市役所／  
chicori／弦や／バンブーフォレスト／太平洋画房

【青森県五所川原市】むすぶカフェ えいぷりる

【青森県北津軽郡板柳町】monoHAUS

【青森県黒石市】木田理容所／津軽黒石こみせ駅／  
おかしのおくら

【青森県上北郡七戸町】TBT英会話教室

【山形県】(有)熊谷伊兵治ナメコ生産所 くまちゃんめこ

【茨城県】art space bar conflict cube コンフリ

【東京都】Only Free Paper／RE:BIRTH STUDIO

【大阪府】はっち

【岡山県】ブックランドあきば岡山高島店／レストランMint

### 今回の表紙撮影のおはなし

工藤 文昭



「AtoZ Memorial Dog」は、2006年に弘前市で開催された展覧会「YOSHITOMO NARA+graf AtoZ」を記念して制作されたオブジェである。設置から10年以上経過し、今では市を代表するパブリックアートとして、親しみを覚えている市民も多いことと思う。モデルを務めていただいた葛西さんも好きな場所として同所を挙げた。時節柄、撮影は悪天候との戦いであった。雪の合間に撮影を試みるが、すぐに吹雪いて中断のくり返し。外気温-8℃の中、天候が落ち着くまで長い時間付き合ってくれた葛西さんのおかげで、なんとか撮影することができた。皆さまの目に留まれば幸いです。

【撮影場所】吉野町煉瓦倉庫（弘前市）【モデル】葛西なつき【撮影】工藤 文昭



### トヴォの最新情報は以下で更新中です。

tovo2011.com SHOP shop.tovo2011.com @tovo2011

https://www.facebook.com/tovo2011 @tovo2011

【発行】代表：小山田 和正 (email: info@tovo2011.com)  
住所：〒037-0056 青森県五所川原市末広町14-1



TAKE FREE  
Vol.17(MAR.2018)



©YOSHITOMO NARA

ALWAYS  
WITH YOU



# あしなが育英会 ファシリテーター 1年生 by グドウチホ

tovoの活動は目標の10年まで残り3年半ほどになりました。3年半後、tovoは解散し、すぐにその存在も忘れられていきます。しかし、その前に、青森に楽しく支援できる『人』を残したいと考えています。

…などと、かっこつけたことを言ったところで、tovoは吹けば飛ぶような小さなプロジェクトで、資金も潤沢ではありません。でも、もし、青森に東日本大震災で親を亡くした子どもたちの力になりたいという気持ちを持った『人』がいるのであれば、小さければ小さいのバックアップをしたいと思いました。



**は** じめまして、あしなが育英会ファシリテーター1年生の工藤です。「ファシリテーター」のフの字も知らない私が、ご縁でファシリテーターになりました。「ファシリテーター」って何？って思う方も多いと思います。今回は「ファシリテーター」についてすこしお話を。そして、震災の体験談も。このお話で「あしなが育英会ファシリテーター」を知るきっかけになれば。

2011年3月11日、あの日、私はスーパーで地震を体験しました。陳列棚から商品が落ちてくるほどではなかったものの、ひどくグラつき、外へと避難した記憶があります。店員さんが椅子や、膝掛け、カイロなど渡してくれ、迅速な対応にも驚いたものです。その時、弟は八戸市にいました。八戸市は震度5弱くらいだったような。弟の安否を直ぐに確認しようとメールを送るも、返ってきたのはその日の夜くらい。回線がパンクし、連絡もとれず、地元は停電。ろうそくの火を頼りに弟の安否を家族で想っていました。ネットから流れる未曾有の災害のニュース…。弟は津波に巻き込まれることはなかったものの震度5の恐ろしさを経験。弟のお友だちは自宅の前まで津波が押し寄せてきた、なんて話も聞きました。色んな人に様々な被害をもたらした震災。それは目に見えるものもあれば、目に見えない心まで、様々なカタチで爪痕を残しました。

**さ** て、ひょんな事からこの tovo さんと繋がりがあって、たまにお手伝いさせていただくことがありました。今回、この話を頂いたときも、たまたまのタイミングでした。グリーフケアに元々関心があった私、自らも仕事柄「死」を何度も目の当たりにしました。そして、何度も看取り、大切な人を亡くした経験もありました。たまたま Facebook のページを見て気になっていて、仕事の都合とかで難しいかなあって思ってた、そんな矢先に、(習い事の先生である) 赤石さんからメッセージが。その時に



そんな思いから、一昨年、2016年より震災や津波で親を亡くした子どもたちの心に寄り添うボランティア「あしなが育英会ファシリテーター」を、青森に1年に1人ずつ増やしていこうと考え「青森にあしなが育英会ファシリテーターをふやしていくプロジェクト」をはじめました。

おかげさまで、2016年は坂本小雪さんがtovoから初めての「あしなが育英会ファシリテーター」となりました。そして、昨年、2017年12月、tovoから2人目のファシリテーターが誕生しました。今回は、その工藤千穂さんからのレポートです。(tovo代表 小山田和正)

「行って」って誰かにポンと背中を押されたようなそんな感じがしました。これも何かの縁なのかもしれない。ずっと自分のなかで行かなくて思ってたんです。



**昨** 年末、2017年12月2日～3日の2日間、「ファシリテーター養成講座」へ参加する為、盛岡に向かいました。道中吹雪に見舞われ当初の到着予定より遅くなり、遅れるかとヒヤヒヤしながら運転。場所に到着して、その時に驚いたのは受講者の方たちが、私ともう一人の男性を除いてみんな学生さんだったこと。あしなが育英会の奨学生さんもいたよう。こんな若い子たちに囲まれて(といっても私もまだ、24なら若いかな笑)。約5年ぶりの座学に眠い目を擦りながら受けてきました。



**1** 日目は、初めましての方たちとアイスブレイク、そしてグリーフについて。グリーフとは喪失体験に伴う愛惜や悲しみのことを示します。死別以外にも人の死には様々な物的、心的な喪失を伴います。「ファシリテーター」は医者でもなければ、カウンセラーでもない。あくまでも一人の人。グリーフの主体はあくまでも子供であり、「ファシリテーター」は手助けするひと、脇役なのです。ケアにあたる大人はみんな一般の人。特別な資格ではなくちょっとしたコツで子供たちを支える。例えば質問の仕方、話の聞き方等々…。

「ファシリテーター」にはいくつかのルールがあります。例えば子供の主導権を奪ってはいけないこと。安全な場所をつくるなどです。そして、相手のことも大切だけれど自分自身をまず知りケアしていくこと。自分自身を大切に初めて相手に優しくできる余裕があるからです。

**2** 日目は、実際に子供と大人で分かれて「ファシリテーター」のイメージトレーニング。様々なゲームを通して、子供役、「ファシリテーター」役で思ったことをみんなで伝えあって共有してきました。そして最後にどんな「ファシリテーター」になりたいか、あとは感想を。2日間とても新鮮で、楽しかったです。色んなことを若い内に経験し、それを伝えてくれた方たち。ある人は泣きながら、ある人は難しそうに色んな人の気持ちを共有出来たことは刺激的で私の心にとっても深く印象に残りました。

**私** が思うに、「ファシリテーター」の役目は、災害や津波で大切な人を亡くした子供たちには「守られているという安心」が必要だと思います。愛情を受け、社会に羽ばたいていけるように、成長していくためには。今回、講義を受け、「ファシリテーター」の役目は「寄り添うこと」だと思いました。子供たちの気持ちを汲み取り、話を聞いて、待つ。そして、たくさん遊んで他愛もないことで笑い合う。子供たちとたくさんの感情を共有していけたら、イイなってすごく感じました。

2018年3月17日に、初めて陸前高田レインボーハウスへ「あしなが育英会ファシリテーター」として行こうと思っています。実践となれば不安は付き物ですが、負い目せずあくまでも遊び相手として楽しんできたいと思います。これから子供たちと触れあいながら、子供たちの頼れる大人として、子供たちの指針になるようなお姉さんとしてお手伝いしていけたらと思います。

